第一巻第二号

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『われなんぢの法(のり)をいつくしむこと　いかばかりぞや。
われ終日(ひねもす)これを深くおもふ』
『わがためには
千々のこがね白銀(しろがね)にもまされり』
ダビデ

『聖書は、世になだゝる幾多の書籍にいやまさりて、われを筆とるものとおほし立てぬ。これが道德上及び心靈上の方面はをいて問はずとするも、聖書はなほ多くの古文學や、わが祈禱書と同じく、その中よりいと崇高なる文體を學ぶことを得べし』
サー、エドヰン、アーノルド

米國大統領アンドルー、ジヤクソンは死に臨み、聖書を指して曰く
『この書は、わが國共和政の依つて以て安立する岩なり』
と

舊約聖書は何故に研究すべきか

われらはいかなる必要を認めて、おのれの國と他の國とを問はず、遠くその起源にまでも泝りて、これが歷史、文學、詩歌を知悉せんとするぞ。蓋しわれらはこれによりて人類發展の跡を見、またその男女を問はずすべてなだたる古人の經歷及びその心情を檢し、而してけだかき思想をこめたる詩歌及び記錄に映せる彼等の美と力との發現が、われらをしてすゞろに感奮せしむるものあるを以てなり。

こゝに我等が心をひそめて研究すべき一書あり。この書の文學上の價値は、とく世の人の認むる處となりて、幾千歲の下、今なほよくその存在を保てり。凡そ世に書籍として、精密なる分解と嚴刻なる批判とを加へられ、しかも尙ほよくこれに耐へ得たるもの、この舊約全書—聖書の一部を成せる——の如きはあらず。『この書は一個の鐵砧(かなしき)にして、幾多の鐵槌を磨損したり』と、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宜なるかな言や。

舊約全書は、文學上の作物として、蒐集その當を得たる文庫の觀をなせり。試みに歴史を學ばんとするものあるか、かの約書亞記、士師記、列王紀略、歴代志畧についてこれを見るべし。古人の閱歴行爲、その中に描かれて、よくその詳細を極む。或は詩歌を誦せんとするものあるか、かの詩篇、約百記の如きは、その中に詩趣の裕なるものあるを知らん。或は小説を播かんとするものあるか、かの以士帖書、路得記の如き、その中優にやさしき、まことの婦人として、世の鑑となすべきものあるを見ん。かくの如く批評家既に舊約聖書を以て殆んど他に比類なきものなることを認む。されば單に教育あり、才智ある婦人の立場より見るも、なほこれを知悉すべき要あるにあらずや。

一歩を進めてこれをいへば、われらは舊約聖書により、こゝに一大統治者の存在するありて、いにしへより今に至るまで、絶えずその力を以て世界の事物を統御しつゝあることを認むるなくんば、萬國の歴史を研究するに當りて、われらは到底その人類の相倚り、相係はざる處、その興廢の由つて來る處を知悉すると能はざるべし。之を例せば、猶太民族の舊約聖書にある神が、世界の有力なる種族に特殊の關係を有するなどいはゞ、世或はこれを嘲笑するものあらん。されど試みに預言の書を繙いてこれを學ばゝ、地球を創造し、人間をしてこれに住はしめたる神は、またおのが民の歴史をも統御しつゝあることを解するに至らん。

われらをして今この智識的觀察點より一轉して、更に心靈的觀察點よりこの書の價値を檢せしめよ。パウロ其他新約聖書の記者は勿論、イエス、キリストに於ても亦た、この舊約聖書を引證せり。キリストはユダヤ人が全くこの書を知悉せるものとしてその教を說きしかど、彼等の暗愚なる、正しくこれを了解することを得ざりしを以て、遂にキリストを誤解するに至れり。舊約聖書は新約聖書の適當なる理解を得べき鍵鑰なりといふべし。

キリストは舊約聖書にある歴史上の事柄をとりいで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、これを語りしこと、その數二十を超ゆ。またある時は、この書より全句を引き來りてその儘これを用ゐたり。然り彼はその生涯の初頭に於ても末尾に於ても、この舊約書を用ゐて敎を布きぬ。路加傳四章十七節によれば、彼が預言者イザヤの書を披いて讀みいでたる處あるを見るべく、また路加傳二十四章によれば、彼がエマヲに行く途中、『モーセより凡ての預言者を始め、すべての聖書に於て、已についてのことは解明されたり』といひしを見るべし。また數日の後、湖畔に於て、彼は同じくこれらの語を引きて再び語りぬ。またキリストが十字架の上より最後に發せし『わが神、わが神、なんぞ我を遺てたまふや』、及び『わが靈を爾の手に託く』の言も、詩第二十二篇及び第三十一篇に記せり。かくの如く、舊約聖書の預言を完うせしキリストが、この書によりて豐富なる智識を得たりとすれば、また彼と同じくこれを得んと欲するものは、このうち必ず彼等のために驚くべき秘事の藏せらるゝものあるを發見することなくして可ならんや。請ふらくはこの書を以て、先づ文學として、歷史として、神の人類に對する啓示として學ぶべし。然らばいつしかかのダビデと共に叫ぶに至らん、

『なんぢわが眼をひらき、なんぢの法のうちなる奇(くす)しきことを我にみせたまへ』。

イー、エム、ソーパー

『なんぢ聖書をもてり、されど果してよくこれを獲得したりや。汝それをおのが手に保てり、されど果してよくこれをその心に藏めたりや。汝この書を讀む、されど果してよくこれによりて生けりや。人はその心の從順なるにつれて、おのがもてる聖書もその値を加ふべし。從順の德を熾にすることなくして、未だおのれの聖書にその値を加へ得るものはあらず。かのキリストの衣に觸れし婦の話は、なんぢまた自ら信仰の手をのばすによりて、初めておのれのものとなすことを得べし。』

エーモス、アール、エルス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

われらの識見は、おのが人物に負ふ處極めて大なり。外界の美を辨別するは、われらの內部によくこれと調和し、よくこれを認識するものありて、初めて能くすることを得べし。われら若し或は自然、或は藝術、或は人物、或はわれらに對する神のことばの最妙處を識らんと欲せば、これ等のもの丶中に隱れ存する最もうるはしく、また最もまことなるもの丶心靈的摸型が、先づわれらの心內に發達し居るを要す。わが心優美にして初めて新なる美に感ずるを得べけん。

聖書日課

明治三十七年六月分

◎一日(水)使徒行傳八章一四―二五。

半ユダヤ人にして、半異邦人と稱せらる丶サマリヤ人は、この兩者の間に橋梁を築けり。路加傳九章五四を讀まば、ヨハネがかつてこのサマリヤ人に對して有せる感情のいかなりしかを知るを得べし。彼既に聖靈のバプテスマを受けたれば、『いまペテロと共にサマリヤにくだりて、尙ほ聖靈の火の下らんことを祈れり』。

(第十八節)シモンは路加傳十一章一三に於ける約束を知らず、また第二十四節にいへる如く、彼は神の前に正しからざりき。彼は罪の汚辱より救はれんがためにあらで、却つてその刑罰を免れんがために祈れり。彼によりて我等は偏に神の榮光をのみ求むべきことを學ぶ。

◎二日(木)使徒行傳八章二六―四〇。

ペテロ、ヨハネ共にエルサレムに歸る。ピリポ獨り殘されてその都會に在り。こ丶には人々多く心をとめて福音を聞かんことを望みゐたり。然るを彼はこの都會を去りて、かの淋しきところに往くべき命を受け、頗る怪訝の念に堪へざりしが如し。されど主の命なるを以て、彼遂に往けり。第二十九節を見れば、彼また更に命を受け、趨つてこれに從ふ。是に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於て、彼初めておのがサマリヤより送られしは、これ正しくわれをして啓導(みちびき)を求むる一人のものに遇はしめんがためなることを悟れり。我等はこれによりて二つの教訓を學ふべし(一)神は從順なる僕を用ゐ給ふこと。(二)神はおのれに向つて誠實に求むるものに光を與へ給ふこと。

◎三日(金)使徒行傳九章一―一六。

サウロの加へし迫害は、これ多くの男女に對するものなりと自ら思ひゐたりしに、第五節にあるが如く、彼は計らずもその主キリストなりしことを示されたり。イエス、キリストとその民との親密なる契合を見るべし。約翰傳十七章二一。約翰第一書五章二〇。サウロは直ちに第六節にある主の命に從へり。アナニヤのことに就きては、使徒行傳二十二章一一に示されたる外、更に何をも知るに由なし。されど神が彼を選び給ひしは、彼をしてパウロを導きて光明を得しめんがためなりき。苟もキリストを信ずるものはその名聞いかに乏しくとも、神必ずこれを知り、且つこれを用ゐ給はずといふことなし。

◎四日(土)使徒行傳九章一七―三一。

サウロは直ちに主の證者となりぬ(第二十節)。人々これを見て皆な駭きあへり(第五十一節)。かくの如く信者たるものは、皆なおのれに接するものゝ驚く程に、おの〳〵改心する處なくして可ならんや。サウロは既に『强健(ちからづき)たり』。而してこの力の源は第十七節に示さる。

◎五日(日)使徒行傳九章三二―四三。

ペテロがかつて美(うつくし)と名くる門にある人を醫せし時の如く(使徒行傳三章六。四章一〇)、アイネアを醫す時にも、その心を用ゆること誠に周到にして、これを醫すべき力は基督より出づるものなるを示せり。またドルカスを起こす時にも、彼がそのために祈禱をなしたるを見れば、その用意の常に一貫せるを知るべし(第四十節)。

祈禱　我等は各自主の務をなし、かつ主をあがめんがために、我等に向つて從順の心を與へ給はんとを

祈るべし。

◎六日(月)使徒行傳十章一―一六。
コルネリオにつきて第二節に記せる四つの事柄に注意すべし。彼は自ら有する識量に從ひてその生涯を送れり。神は心をこめて尋ぬるものにおのれを現はし給ふ(希伯來書十一章六)。神はその使者たるペテロが祈れる中に、幻によりて彼のために備をなし給へり。

◎七日(火)使徒行傳十章一七―三三。
神がペテロに向つて追々にその前途を示し給ひしことを味ふべし。初めに幻を以て、神の恩惠はすべての人に及ぶことを示し、次に第二十節及び第三十三節に於ける命令によりて、彼は神がおのれをカイザリヤに遣し給ひし理由を知れり。第三十一節『爾の祈禱は聞かれたり』。かくの如く、イエス、キリストは我等に約束を與へ給ふ(約翰傳十四章一三―一四)。

◎八日(水)使徒行傳十章三四―四八。
ペテロの說敎は簡なりといへども、キリストを知らんと欲するもの丶要する所を語れるにて、其の結果はかのペンテコステの日に於けるが如く、これらの異邦人間に多くの悔改者を出すに至れり(使徒行傳二章一―四)。

◎九日(木)使徒行傳十一章一―一八。
この頃に至るまで、主の敎を信ずるものは多くユダヤ人にして、彼等自ら謂らく、救をうけんと欲するものは、本來のユダヤ人なるか若くはユダヤ人となるにあらざれば、これを得ること能はずと。かくて彼等は神が異邦人にも聖靈を下し給ひしことをペテロより聞き及びて、その惑を解き、かつ神が異邦人にもまた『生命を得んがために悔改』を與へ給ひしことを喜べり。

◎十日(金)使徒行傳十一章一九―三〇。
ステパノの死と、これに伴ふ迫害とは一大災禍の如く思はれしかど、これ神が多くの人々に恩惠を與へんがために用ゐ給ひしものなり(第二十一節)。第二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十三節にあるバルナバの勸奬は、すべて我等のために與へたるものなること知るべし。我等は宜しく堅確なる方途を辿りて、主に近かんことを勉むべし。

◎十一日(土)使徒行傳十二章一―一二。

こゝにヘロデ王といふは大王ヘロデ（馬太傳二章一六)の孫にして、即ちアグリッパ第一世なり。この王がヤコブを殺したるは、一は以て敎會を苦しめ、一は以てユダヤ人の歡心を買はんと欲したればなり。然るにこのたびペテロが捕へられし時には、敎會これがために懇切に祈りければ、王の力もこれに抗すること能はざりき。ペテロの靜肅なる信仰に注意すべし(第六節)。また天使はペテロが自ら爲し得ることには少しも手を出ださゞりき(第八節)。神は我等がペテロの遺しゝ鑑に從ひて、從順と信仰とを保たんことを期し給ふ。

◎十二日(日)使徒行傳十二章一三―二五。

これら初代信者を懷へば、その我等と相似る處甚だ多きを見る。彼等が尙ほペテロの獄より救はれんことを祈りゐたる時、ローダ入り來りてペテロの至れるを告ぐ。彼等これを聞きて『爾狂へり、そはペテロの天の使者なり』といひしが、第十六節にある如く彼等は果してペテロを見て、みな駭きあへり。かくの如く、神は我等が自ら心に思ひ、或は祈る處のものにまして、いとも裕かにみ力をそへ給ふぞかし。迫害者ヘロデ王は、その最も得意の時に臨みて、遂にその身を滅さる。これ彼が人々のおのれを稱して神といひしを許したりければなり。かくて『神の道はます〳〵廣まりぬ』。これ何れの時も同じ。キリストに背くものはいつも斥けられて、勝利の道は進みに進みて、須臾も停止する處なし。

[祈禱]神を信ずるに、主の助けの下らんことを祈るべし。

◎十三日(月)使徒行傳十三章一―一二。

本章に於て初めて外國傳道の着手せられしを見る。神は最も優秀の人々を選びてこれを遣し給へり。されど第十五章三〇に於けるが如く、神はこの敎會を

して、何物をも任はしめ給はざりき。我等若し神に向つてその最善の力を致さば、神は我等を祝し給ふべし。

◎十四日(火)使徒行傳十三章一三—二五。

旅行の途すぢは地圖について見るべし。バウロはその說敎の中に、ユダヤ民族の歷史と、またイエス、キリストの事とを併せて、これを一回ならず概說し、ダビデが自らわが裔にメシヤの出づべきを告げし如く、ペテロはキリストを以てダビデの裔なることを宣ぶ。

◎十五日(水)使徒行傳十三章二六—四一。

バウロは憚る處なく、キリストの働の功果の大なるを陳べて、以てその論を結べり。即ち彼は恰も人々が心に求めゐたりし罪の赦を告げ、かつこの罪の赦はモーセの律法によりて義とせらるゝにあらずして、キリストの贖ひに依ることを說けり。

◎十六日(木)使徒行傳十三章四二—五二。

第四十六節の『永生を受くべきものに非ずと定めたり』と、第四十八節の『永生に定められたり』との二句を深く味ふべし。ユダヤ人は自ら拒みたるが故に、これを受くるの値なきものとなり、異邦人は自ら信じたるが故に、これを受くべきものとなりたり。

◎十七日(金)使徒行傳十四章一—一八。

バウロとバルナバは人々の反對をうけながら、久しくイコニオムに於て働けり(第二、三節)。かの跛者の癒されし理由を見よ(第九節)。その結果は實に豫想の外に出で、却つて使徒等の心を痛ましめぬ。されどまたこれによりて彼等は活ける神をのべ傳ふべき機會を得たり。

◎十八日(土)使徒行傳十四章一九—二八。

バウロはこの石にて擊たれしことを哥林多後書二章二五に記せり。彼はこれによりて、使徒行傳七章五七—六一にある事を想起せしやいかん。使徒等はすべてその辛酸と勞苦を嘗めて、後スリヤのアンテオケに歸り、敎會の人々に告ぐるに、彼等が自ら爲し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し事にあらで、『却つて彼等を助けて神の行したまへる凡ての事』を以てせり。

◎十九日(日)使徒行傳十六章一―一三。
これより第二回の傳道旅行となる。地圖について見るべし。聖靈彼等をして某々の地に行くことを止め、ムシアを經てトロアスに下らしむるなど、その指導のいかに驚くべきものありしかを思ふべし。パウロはトロアスにて幻に遇ひ、これに導かれて初めて歐洲の地に入れり。

祈禱 神の働をなすに當り、我等をしてこれがために與へらるゝ機會を用ゆるに、常によく忠實ならんことを祈るべし。

◎二十日(月)使徒行傳十六章一四―二四。
婦人等にキリストのことを告げたるものは即ちパウロなれど、ルデヤの心を啓きしものは神自身にてありき。かくの如く、人々をして信者に化せしむるはこれ常に神のみわざに由るべきなり。我等は種子を蒔く、これに培ひ給ふものは神なり(哥林多前書三章六)。歐洲に於て最初に信者となれるルデヤは異邦人にてありき。この女の家は。これらの傳道者の住する處となれり。

◎二十一日(火)使徒行傳十六章二五―四〇。
パウロとシラス獄裡にありて、共に神を讃む。これ實に彼等の凱歌にあらずして何ぞや。信者は試錬の中にも、なほ歌ふことを得。第四十節に於て、パウロとシラスが己を忘れし一段を味ふべし。その鞭撻の傷(いたみ)なほ未だ癒へざるべきに、言一としてこれに及ぶことなく、『兄弟等に遇ひて、これに勸をなしぬ』。

◎二十二日(水)使徒行傳十七章一―一五。
この章なほ續いてユダヤ人の固執を述ぶ。パウロがこれらの人々に向つて救の道を説く處、誠に勉めたりと云ふべし。ベレアの人々につきて記せる處を味ふべし。彼等は『性情(ひとゝなり)よきが故に、好みて道をきゝ日々に聖書を究(さぐ)れり』。

◎二十三日(木)使徒行傳十七章一六―三四。
アデンスに於て、パウロはギリシヤ哲學の二大學派

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の代表者に會せり。一はエピクリアン派にして、彼等の説く處、最上の幸福は快樂を求むるに在りとなし、他はストイック派にして、彼等は耐忍を以て最上の幸福となせり。パウロ曰く、『この神は何處の人にも皆な悔改むることを命じ給ふ』と。こゝに何處の人もといへる中には、我等をも含むものと知るべし。されば悔改はすべての人のなすべき務なりとす。

◎二十四日(金)使徒行傳十八章一—一七。

希臘の商業上の中心たるコリントに於て、ユダヤ人のパウロに對する反抗極めて劇烈なりしかば、パウロは嚴酷なる語を彼等に遺し、去つて異邦人に適けり。この時幻あらはれて彼を慰む。この幻はトロアスに於けるが如く、人にもあらず、また天の使にもあらず、實に主自身にてありき。主がおのれの僕を顧み給ふこと誠に懇到なりといふべし。

◎二十五日(土)使徒行傳十八章一八—二八。

パウロ遂にアンテオケに歸り、暫く此處に止まりて後また第三回傳道の途に上る(第二十三節)。アポロは教育に於ても、また地位に於てもおのれより劣れるプリスキラや、アクラの如きものに就き、好んで神の道を學べり、以てその雅量の大なるものありしを知る。その後彼が人々に向つて説きたる功果に注意すべし(第二十七節)。

◎二十六日(日)使徒行傳十九章一—一二。

パウロ到る處に反對を蒙れども、未だ嘗て撓む處なし。これ我等が採りて以て鑑となすべきものにあらずや。我等が信者としてその生涯を送るに當り、これを遮らんとするものあるも、またキリストのために働くに當りて、これがために困難の境に陷ることあるも、我等は決して沮喪その任を遁るゝが如きことなかるべし。

祈禱　我等が日々に進みて、いよ〳〵主の務を盡し得んことを祈るべし。

◎二十七日(月)使徒行傳十九章一三—二七。

諸君は何も缺くべきものを有せざるか。キリストに對する忠義の念と互に相兩立し難きものありて、こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れがために自ら良心の呵責を蒙るが如きことなきや。若しこれあらば宜しくこれを焚くべし。かくして我等の心と家とは『主の道廣まりて、勝を得るに至らん』。

◎二十八日(火)使徒行傳十九章二八―四一。

エペソの人々の騒擾は、我等をしてかのバアルの預言者が朝より晝に至るまで、『バアルよ我儕に應へたまへ』と籲びたることを想起せしむ。アレキサンデルといふは、パウロが提摩太後書四章一四に記せる人ならんか。

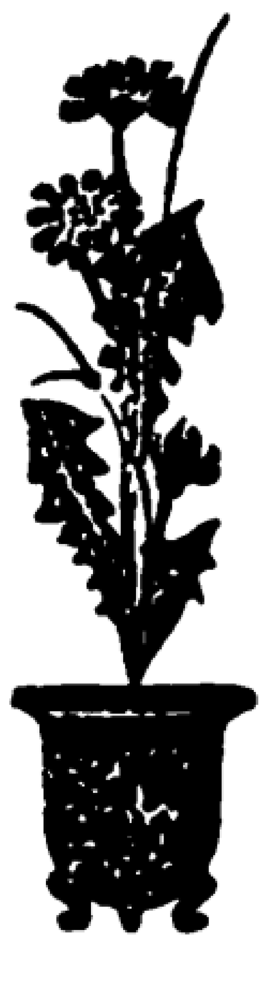
◎二十九日(水)使徒行傳二十章一―一二。

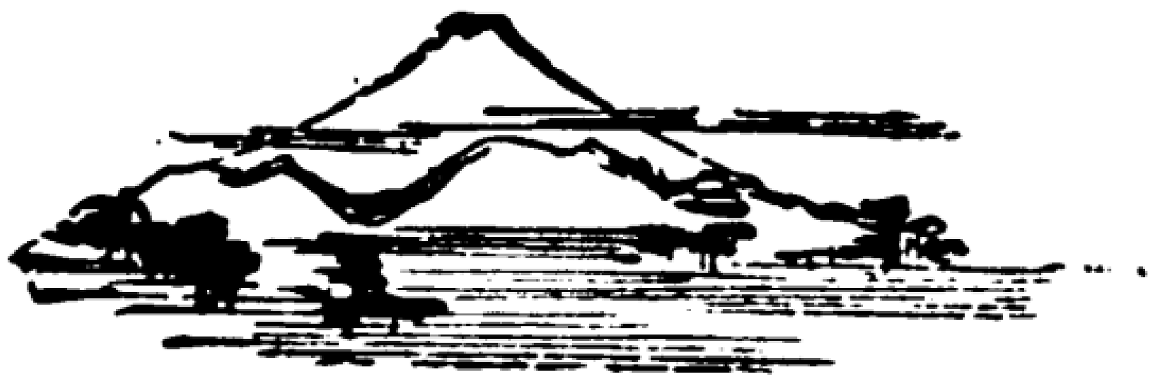
トロアスに於て、神は、パウロに與ふるに、かの少年をして再び起つことを得しむべき機會を以てし給へり。我等が知れる處によれば、これパウロが行へる唯一の奇跡なりしが如し。かくて彼はまた樓に上り、天明に至るまで人々と相語りぬ。かく主がおのれの心にゐまして働き給ふことを示すに至りて、パウロの語る處は、一しほの重きを加へたるや疑なし。

◎三十日(木)使徒行傳二十章一三―二四。

パウロが主に事へたる誠意(第十九節)、その忌憚なき處(第二十節)、ユダヤ人と異邦人との別なく、すべての人に對する彼の使命及び我等にとりて極めて緊要なる二つの教訓(第二十一節)など、みなよく心をとめて見るべし。パウロは神恩の福音を證し、且つこの大任を完うするに於て、自己の生命の如きは毫も顧るの遑あらざりき。我等は果してパウロの如くキリストを愛するか。

(エム、エー、ホイットマン註)





Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

taught that the highest good is endurance. Paul says "this God commands all men every where to repent." *All* men *everywhere* includes *us*. To repent is everyone's duty.

June 24th. Fri. Acts 18.1-17. In Corinth, the commercial center of Greece, the Jews opposed Paul so bitterly that he turned from them with most severe words to the Gentiles. For his comfort he is granted a vision-not, as in Troas, of a man, nor even an angel, but of the Lord himself. How lovingly the Lord watches over His servant!

June 25th. Sat. Acts 18.18-28. Paul finally returns to Antioch and after remaining there some time, starts on his third nissionary tour (v.23). Apollos shows true greatness in willingly learning from Priscilla and Aquila who were of humbler education and position in life. Notice the effect of his preaching afterwards (vs. 27,28).

June 26th. Sun. Acts 19.1-12, Every where Paul meets opposition but he *never gives up*. Is he not a good example for us? Do not let us be discouraged, do not let us turn aside, even though some may try to hinder us in living a Christian life, even though we may find hard places in trying to work for Christ.

Pray that each day we may go on in the service of our Master.

June 27th. Mon. Acts 19.13-27 "Have *you* nothing to burn? Nothing of which conscience accuses you as inconsistent with loyalty to Christ? If there be any thing *burn it*, then in your heart and home "the word of God will grow mightily and prevail."

June 28th. Jues. Acts 19.28-41. The conduct of the mob at Ephesus reminds us of the priests of Baal who called (I Kings 18.26) from morning until noon "O Baal hear us." Alexander is, perhaps, the man of whom Paul speaks in II Tim. 4.14.

June 29th. Wed. Acts 20.1-12. In Troas God gave Paul opportunity to work, as far as we know, his only miracle of restoration. Then he went up and talked until day break and may we not think that after such a manifestation of the presence and power of the Lord in him, his words had additional weight."

June 30th. Thurs. Acts 20.13-24. See the spirit with which Paul served the Lord (v. 19), his fearlessness (v. 20), his message to all, both Jews and Gentiles, the two things most necessary for us all (v. 21). To him life itself is of no account compared with completing his task-to testify the gospel of the grace of God. Do we love Christ as Paul did?

M. A. Whitman.

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

remission of sins as men feel their need of, and this by a process of justification which could not have been by the law of Moses."

June 16th. Thurs. Acts 13. 42-52. We should notice carefully two phrases "unworthy of eternal life" (v. 46), and "ordained to eternal life" (v. 48). "The Jews were unworthy becanse they rejected, the Gentiles were ordained because they believed."

June 17th. Fri. Acts 14.1-18. In spite of opposition Paul and Barnabas worked for a long time in Iconium (vs. 2.3). See in v. 9 why the lame man could be healed. The effect (vs. 11,12,13) was a surprise and grief to the apostles but it gave them fresh opportunity to proclaim the living God.

June 18th. Sat. Acts 14.19-28. Paul speaks of this stoning in II Cor. 11.25. Did it remind him of Acts 7.57-61? After all their labors and sufferings the apostles go back to Antioch in Syria to tell the church not what they had done but "all that God had done with them."

June 19th. Sun. Acts 16.1-13. We now begin the second missionary journey which should be followed on the map. See how wonderfully the Spirit led the workers, hindering their moving in certain directions (vs. 6,7) and bringing them by Mysia to Troas where Paul was given the vision that led him for the first time into Europe.

Pray that God may keep us faithful in using the opportunities He gives us of work for Him.

June 20th. Mon. Acts 16.14-24. Paul told the women of Christ but *God* opened Lydia's heart. The conversion of a soul must always be God's work. We plant the seed, He gives the increase (I Cor.3.6). Lydia, the first convert in Europe, was a Gentile. Her house became the missionaries' home.

June 21st. Tues. Acts 16.25-40. Was not this a triumph of Paul and Silas-singing in that inner prison! *Christians* can sing in trial. In v. 40 see the self forgetfulness of Paul and Silas. Though they must still have been suffering from the scourging, nothing is said of that, but they saw "the brethren and comforted them."

June 22nd. Wed. Acts 17.1-15. A continuation of the story of Jewish prejudice. How persistently Paul always offered salvation to them first! Notice what is said of the Beroeans. They were "more noble," they "received the word with all readiness of mind," they "examined the Scriptures daily."

June 23rd. Thurs. Acts 17.16-34 In Athens Paul meets representatives of the two principal schools of Greek philosophy; the Epicureans, who held the pursuit of happiness as the highest good and the Stoic who

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

a time, first the vision to teach him that God's mercy is for all, then the command in v. 20 and in v. 33 he sees why God sent him to Cesarea. v. 31 "thy prayer is heard." Jesus gives *us* a promise (John 14.13,14).

June 8th, Wed. Acts 10.34–48. Peter's sermon is not long but he tells them what they needed to know of Jesus Christ. The result was a Pentecost for the Gentiles (ch. 2.1–4).

June 9th. Thurs. Acts 11.1–18 Up to this time most of those who had believed were Jews and they had thought that in order to receive salvation one must either *be* a Jew or become one. When they heard from Peter that God had given the Holy Spirit to Gentiles their eyes were opened and they rejoiced that He had given to the Gentles also "repentance unto life."

June 10th. Fri. Acts. 11.19-30. Stephen's death and the persecution following *seemed* a calanity but it was used by God as a blessing to many (v. 21). The exhortation of Barnabas in v. 23 is for us all. We should have a fixed, steadfast purpose and should cleave unto the Lord.

June 11th. Sat. Acts 12.1–12. Herod Agrippa, grandson of Herod the Great (Matt. 2.16). He had a double purpose in killing James-to vex the church and to please the Jews, but he had no power in Peter's case against the unceasing prayers of the church. Notice Peter's quiet faith (v. 6). Notice, too, that the angel does for him nothing that he can do himselt (v. 8). God expects of us just those things of which Peter is an example-obedience, faith.

June 12th. Sun. Acts 12.13–25. How like ourselves were these early Christians! They were praying earnestly (v. 5) for Peter's deliverance yet when Rhoda declares (v. 15) that Peter has come they say "Thou art mad. It is his angel" and in verse 16 they are amazed. So God can do for us "exceeding abundantly above all that we ask or think."

Pray God to help us to believe Him.

June 13th. Mon. . Acts 13.1–12. Here is the beginning ot "foreign missions." God called the best men and sent them forth but he did not let the church suffer as we learn in ch. 15.30. If we give God our best we know that He will bless us.

June 14th. Tues. Acts 13.13–25. The journey should be traced on the map. In Paul's sermon he repeats briefly the history of the Jewish nation connecting that history with Jesus Christ, declaring that he was of the seed of David, as David himself had declared the Messiah should be"

June 15th, Wed. Acts 13.26–41. "Paul ends his argument by boldly proclaiming the gracious results of the work of Jesus, namely, such

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

garment is *yours* only as *you* also reach out the finger of faith."

——Amos R. Wells.

OUR BIBLE READINGS.

June 1904.

June 1st. Wed. Acts 8. 14–25. The Samaritans, half Jew, half Gentile, formed a bridge between the two peoples. See Luke 9. 54 for John's former feeling towards them. Having received the baptism of the Holy Spirit he "comes now with Peter to invoke the falling of another flame"— the baptism of fire from the Holy Ghost.

June 2nd. Thurs. Acts 8.26–40. Peter and John return to Jerusalem. Philip is left alone in the great city where many are eager for the gospel. He must have wondered at the command to go to the desert but it was the Lord's and he went. Another command in v. 29 which he *runs* to obey and then he understands that he was sent from Samaria to a soul needing guidance. Let us learn two things; (1) God uses an obedient servant, (2) God sends light to one who is *earnestly* seeking Him.

June 3rd. Fri. Acts 9.1–16. Saul thought he was persecuting men and women. In v. 5 he is shown that it was the Lord. Notice the close union of Jesus with his people. John 17.21, 1 John 5.20. At once Saul obeys the command of v. 6.

Of Ananias we know nothing further except Acts 22.11, but God chose him to lead Paul to the light. No Christian is so obscure that God does not know him (Ps. 40.17) or cannot use him.

June 4th. Sat. Acts 9.17–31. Saul at once became a witness of the Lord (v. 20). All were amazed (v. 21). Should not every Christian be so changed that all who see him shall be amazed? Saul "increased in strength." The secret of that strength is given in the last words of v. 17.

June 5th Sun. Acts 9.32–43. See how careful Peter is in the case of Aeneas as in the healing of the man at the Beautiful gate (ch. 3.6: 4.10) to show that the power is Christ's. In the raising of Dorcas he shows the same thing by prayer (v. 40).

Pray that God may give us obedient hearts that we may do His work and glorify Him.

June 6th. Mon. Acts 10.1–16. Notice four things said about Cornelius in verse 2. He lived according to the light he had. God reveals Himself to those who earnestly seek Him (Heb, 11.6). God prepares Peter, the messenger, by a vision while he is praying.

June 7th. Tues. Acts 10.17–33. See how God shows Peter one step at

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

examples of sweet, true womanhood. As literature crities have acknowledged that the Old Testament can scarcely be excelled, so merely from the stand point of educated, cultured women, there is the necessity of becoming acquainted with it.

Again, we can never truly appreciate universal history, the interdependence and relation of nations, their rise and fall, until from the Old Testament we begin to recognize the power of one great, controlling Hand that has moulded and is still moulding the affairs of the world. One may be inclined to ridicule the idea that all the powerful nations of earth have any special relation to the God of the Jewish Old Testament, but study the prophetical books and you will finally realize that He, who created the earth and put man upon it, is also moulding the history of its peoples.

But let us turn from this more intellectual point of view and see if there may not be a spiritual one. Jesus Christ, as well as Paul and other New Testament writers, made continual reference to the Old Testament. He took it for granted that the Jews thoroughly knew its writings and their failure to understand Him often resulted from their blindness in interpreting aright the Old Testament Scriptures. The Old Testament is a key to the proper understanding of the New.

Jesus made mention of over twenty of the historical incidents of the Old Testament and sometimes quoted whole passages from it. He began and ended his ministry by using it. In Luke 4. 17 He read from the prophet Isaiah and in Luke 24, on His walk to Emmaus, "beginning from Moses and from all the prophets, He interpreted to them in all the scriptures the things concerning Himself." And by the lake a few days later, He again referred to these same scriptures. The last words of Christ on the cross, "My God, my God, why hast thou forsaken me" and "Into thy hands I commend my spirit," are found in the twenty-second and thirty-first Psalms. So if He who was its fulfillment found in the Old Testament such a wealth of knowledge and treasure there must be some hidden marvels in it for those who are willing to search for them. Once begin to study it as literature, as history, as God's revelation of Himself to man, and soon with David will we exclaim, "Open thou mine eyes that I may behold wondrous things out of thy law." E. M. Soper.

"You have a Bible; but do you own it? You hold it in your hand; do you hold it in your heart? you read in it; do you feed on it?

No one has a larger Bible than he obeys. No one can enlarge his Bible except by obeying more. That story of the woman who touched Christ's

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. I June, 1904 No. 2

" Oh how love I thy law!
It is my meditation all the day.
" Better unto me than thousands of gold and silver."
——David.

" I owe my education as a writer more to the Bible than to any other hundred books that could be named. It is, together with the classics and our Book of Common Prayer, the grandest possible school of style, letting alone all that it must ever be on the moral and spiritual side."
——Sir Edwin Arnold.

Andrew Jackson, President of the United States, pointing to the Bible, as he lay dying, said, " That Book is the rock on which our republic rests."

WHY WE SHOULD STUDY THE OLD TESTAMENT.

Why do we consider it necessary to be acquainted with the literature and history and poetry of our own and all other countries back even to their first faint beginnings? Because they reveal to us the development and growth of nations, they lay before us the lives and minds of the great men and women who lived in the past, and they lift us up in the revelation of beauty and strength which is found in song, and the inspiration of high and lofty thoughts.

One book which has come down through the ages, because of its recognized place in literature, *demands* our attention. For no other book has stood the test of minute analysis and harsh criticism as has this book of the Old Testament which is a part of the Holy Bible. Truly has it been said " It is an anvil which has worn out many hammers."

As a piece of literature, the Old Testament offers a well-selected library in itself. Do you seek history? Turn to Joshua, Judges, Kings, and Chronicles, and the life and actions of an ancient people are graphically portrayed. Do you desire poetry? The Psalms and Job have their treasures to reveal. Do you ask for romances? Esther and Ruth offer you the

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA